

| 研究協議 |



発表テーマ

仲間とともに「不撓不屈」でのりこえろ!!

～コロナ禍 学校とPTAの初挑戦への軌跡～

広島県立広島皆実高等学校PTA会長 杠 基



皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介いただきました、広島県立広島皆実高等学校PTA会長の杠です。よろしくお願いたします。コロナ禍においては、皆さんの学校も思ったようにPTA活動ができず、悩み苦しんだのではないのでしょうか。それは、本校も同じでした。本日は、そんな中でも新しいことに挑戦し続けてきた本校の先代・先々代のPTA役員の方々の活動の一部を、皆さんにご紹介させていただきます。短い時間ではありますが、最後までご清聴のほど、よろしくお願いたします。



広島県立広島皆実高等学校

まず始めに、本校の紹介をさせていただきます。明治34年、広島県立広島高等女学校として創立され、今年で創立122年目を迎える伝統校です。2度の改称を経て、昭和43年に現在の広島県立広島皆実高等学校に改称されました。昭和20年8月6日の原子爆弾投下においては、爆心地から非常に近かったこともあり、生徒・教職員、合わせて301名が犠牲となりました。現在は、普通科、衛生看護科、体育科の3学科体制を取っております。こちらが校舎の映像です。平成22年に新校舎が完成し、平成25年には校庭を人工芝に張り替えるなど、歴史と伝統がありながらも新しい設備で学べる学校です。

本校では、チーム皆実を合言葉に、3学科がお互いに高め合い、高い志を持って社会で活躍できる人材の育成を目指しています。そのための指標として、Triple hundred、三つの100を目指しています。三つの100とは、国公立大学、現役合格者数100名超え。運動部活動、全国大会出場者数100名超え。そして、看護師国家資格、合格率100パーセントの三つです。生徒・教員・保護者、一丸となって、日々、取り組んでいます。

また、読書環境の整備にも力を入れており、図書委員会執行部を中心とした地道な活動が評価され、昨年度は文部科学大臣表彰を受賞しました。5月に行われたG7広島サミットでは、図書委員会執行部が広島県立図書館のG7広島サミット特設コーナーの除幕式に参加。また、美術部は市内を走る路面電車のラッピングの絵を描くなど、盛り上げに貢献をいたしました。

本校のPTAは、会長、副会長、監査の本部役員以外に、各学年から選出された委員で構成されています。選出された委員は、生活指導、環境整備、広

まず始めに、本校の紹介をさせていただきます。明治34年、広島県立広島高等女学校として創立され、今年で創立122年目を迎える伝統校です。2度の改称を経て、昭和43年に現在の広島県立広島皆実高等学校に改称されました。昭和20年8月6日の原子爆弾投下においては、爆心地から非常に近かったこともあり、生徒・教職員、合わせて301名が犠牲となりました。現在は、普通科、衛生看護科、体育科の3学科体制を取っております。こちらが校舎の映像です。平成22年に新校舎が完成し、平成25年には校庭を人工芝に張り替えるなど、歴史と伝統がありながらも新しい設備で学べる学校です。



【生活指導委員会】
◆11月1日全県一斉あいさつ運動 (PTA・生徒会・教職員と)
◆警察署・役所・近隣高校生と共に自転車マナーアップ街頭キャンペーン活動など



【環境整備委員会】
◆オープンスクール前に美化活動
◆施設整備の整備、校内巡視活動など

報の三つの委員会に分かれて活動しています。生活指導委員会は、生徒の登下校時のあいさつ運動、警察や役所、近隣の高校生とともに、自転車のマナーアップ活動を行っています。環境整備委員会は、校内美化活動や、校内巡視を行い、教育環境の整備を行っています。広報委員会は、学校行事、PTA行事の取材をし、昨年までは年2回「PTAだより皆実」を発行していましたが、今年度から3回発行することになりました。本部役員は、PTA全体の企画運営を担当し、各学年の進学説明会の実施など、保護者と学校の連携役を担っています。

ここからが、本日の本題です。時は少し遡り令和2年度のことになります。少し思い返していただきたいのですが、あの当時、オリンピックも延期になるなど、恐らく皆さまの学校も、学校行事、PTA行事も、軒並み中心になっていたのではないのでしょうか。そんな中、本校も一大イベントである大運動会を行うか議論されました。毎年9月に行われる大運動会は、全国大会に出場する生徒たちも150名以上が参加するため、大迫力で、生徒も、教員も、保護者も、とても楽しみにしているイベントでした。全校生徒、約1000人が参加する行事は、リスクもあり、いろいろな言葉をいただきましたが、生徒たちの達成感、成長のためにも、最大限に感染対策をしながら、開催しようということ動き始めました。



【広報委員会】
◆広報誌「PTAだより皆実」
年2回発行
◆学校行事の取材活動など

PTA主催「進学説明会」各学年実施
進路指導教諭や外部講師による説明



残念ながら、少しでもリスクを減らすために、保護者の観覧は中止となりました。毎年、大運動会の観覧を楽しみにしている保護者が多いため、校長をはじめとする先生方が、何とか保護者に大運動会の様子を見てもらう方法はないかと模索してくれていました。その中で、無観客で開催するなら、教員がビデオを撮ってはどうか。ただ、感染対策も行いながらビデオ撮影するには人手が足りない過ぎる、撮ったビデオをどうやって保護者に見てもらうのかなど、さまざまな悩みが出てきました。PTAにも、何とか観覧できないのか、



上空からは、ドローン専用
カメラマンが撮影します。

観覧できないのはとても残念だ、PTAで何かできることはないのかななどと、たくさんのお言葉が届きました。学校もPTAも、生徒の頑張りを保護者に届けたいという思いは一緒でした。PTAとして、プロの業者に撮影と編集を依頼し、PTA会員が無料で視聴できるように。期間限定でネット配信をすることを立案しました。学校の賛同と、臨時のPTA委員常任委員会での全員一致での可決を経て、

手探りのプロジェクトが始まりました。

当時、県内の学校でプロの業者による撮影や編集、ネット配信をした学校はなく、情報もありませんでした。何とか、ご縁を頼りに撮影をしていただける業者を決めることができました。交渉を重ねた末、ドローンを含めて6台のカメラで編集し、2枚のDVDに編集することが決まりました。こうなれば、少しでも良いものを作ろうということで、学校の近隣のビルの屋上から撮影をさせてもらえるよう交渉し、許可をいただいたり。撮影に邪魔になりそうな樹木の枝を伐採したりと、できうる限りの準備を進めていきました。編集に必要な音源も別に録音し、撮影のリハーサルも入念に行いました。こちらが、当日の撮影風景です。広報委員会も広報紙に掲載する写真を撮るために、人数を制限してですが、取材に入ることができました。こ

うして、みんなの熱い思いの詰まったDVDが完成しました。きょうは、完成したDVDの一部をご紹介します。ドローン撮影を駆使したマ스ゲームの一部と、エンディングをご覧ください。(映像再生)

いかがでしたでしょうか。(拍手) ありがとうございます。その後、ネット配信の準備を行いました。配信方法はYouTubeを使い、パスワードを設定し、会員だけが見れる方法を採用しました。しかし、途中でパスワードが書き換えられて、保護者の方が見ることができなくなるなど、視聴できなくなるトラブルが発生してしまいました。何度も同様のトラブルが発生したため、学校としてもPTAとしても配信を諦めかけていました。そんなとき、ご縁のあったシステムエンジニアの方が問題点をご指摘くださり、アドバイスをサポートしてくださり、何とか配信をすることができました。

すると、今度は25~26年前に学校がオリジナルで作った曲が、音楽著作権に引っ掛かるのではないかという指摘を受け、YouTubeでの映像の一部が音楽の使用を差し止められました。ソニー・ミュージックにアドバイスをもらいながら、YouTubeに異議申し立てを行い、音楽も使用することができ、無事、配信を



ることができるようになりました。撮影から編集、そして配信まで、たくさんの方々の支えのおかげで、配信は無事、成功しました。

配信後の保護者からの反響はとても大きく、DVDの購入希望が多数寄せられました。当初、販売の予定はなかったのですが、急きょ、販売をすることになりました。DVDは1組1000円で販売をし、売り上げは業者に帰属することとしました。注

意したことは、制作著作権はPTAに帰属する旨、書面で明確化したこと。DVDのパッケージに、複製コピーは違法行為になると明記したことです。そして、DVDのエンディングでは、制作協力は学校と制作会社、制作著作は広島皆実高校PTAであることを流しました。この本校の活動は、広島県内のPTA会長が集う会議等で情報共有されたことから、他校のPTA会長からもたくさんのお問い合わせがありました。各学校の実情に合った方法で、活動の輪が広がっています。

コロナ2年目の大運動会と文化祭も無観客となり、学校や保護者からも要望があったため同様の活動を行いました。文化祭は2日にわたって行われたため、連日の撮影取材となりました。業者では取材しきれない展示は、PTA広報委員会が写真撮影の手伝いを行いました。平等公平に撮影するため、どの角度でどのような広さで、何枚撮影をするか。広報委員会がプロの業者からアドバイスを受け、指導を受け、練習し、本番に挑みました。広報委員も、自分の撮影した写真がどのように編集されて映像に残るのか、緊張しながらも撮影を楽しんでいました。

昨年度の大運動会から、保護者の観覧も再開し、



令和5年度広島皆実高等学校PTA本部役員



制服・体操服の寄付は後輩達へ

Pーパワフルに Tー楽しく Aー明るい

学校行事も、PTA活動も、徐々にコロナ禍前の活動に戻りつつあります。しかし、コロナ禍でPTA活動の制限が続いたことで、以前の活動を経験していた役員がほぼいなくなりました。今年度、本校のPTAも、単純にコロナ禍前の活動に戻すのではなく、コロナ禍前とコロナ禍の間のいいところを融合させて、新しい活動をつくっていかうということで、日々、頑張ってくれています。

そんな中の新しい活動として、制服リサイクルを始めました。卒業生にリサイクルの依頼をし、集まった物品を文化祭で販売し、売り上げを学校に寄付する取り組みです。卒業生に依頼をしたところ、180点を超す物品が集まり、早速、先月行われた文化祭で販売をしました。非常に好評で、開店直後は長蛇の列ができ、2時間たたないうちに、ほぼ完売しました。保護者の皆さまからも、今後も続けてほしいという声をたくさんいただいているので、今後は回収をするタイミングを増やし、継続をしていこうと考えています。

今後も、本校PTAのスローガンである、P、パワフルに、T、楽しく、A、明るい原点に立ち、これからも学校と生徒たちの応援を続けていきます。本校の発表は以上となります。本日の発表が、今後の皆さまの活動のヒントや気付きに、少しでもなれていれば、大変うれしく思います。最後まで、ご清聴ありがとうございました。

発表テーマ

地域に愛される学校 ともに挑んだ10年 ～再編統合から10周年を迎えて～

徳島県立吉野川高等学校PTA顧問 瀬尾 陽子



皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介に預かりました、徳島県立吉野川高等学校、PTA顧問の瀬尾陽子と申します。アレルギー性鼻炎のため、お聞き苦しい点が多少あるかと思いますが、お付き合いのほど、よろしく願いいたします。

本日は、第65回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会が無事に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。テーマに入る前に、少しだけお話させてもらいたいと思います。私には3人の子どもがいます。下の2人が吉野川高校に通い、今年の春、卒業しました。吉野川高校で6年のPTA活動をする中、5年間、会長を務めさせていただきました。5年間の最後の3年間は、コロナウイルスとの戦いでPTA活動が制限された3年でした。創立10周年の中の5年、PTAの役員の方々、保護者の皆さんや先生方と協力し、子どもたちのためにと頑張ってきました。それをもとにテーマに入りたいと思います。

令和元年10月に、新型コロナウイルス感染症が中国で初めて報告されてから、瞬く間に世界中へとウイルス感染は広がりました。そのスピードと感染力の強さは、人々を恐怖へと導いただけでなく、日々、成長し続けていた子どもたちにも影響が及び、子ども同士の数々の思い出にまで大きな影を落としました。それでも、子どもたちを支援するすべはないものかと悩み続けたあの日々を、私たち保護者は今後も、決して忘れることはありません。

阿波農業高校



2022年度 創立10周年



鴨島商業高校



徳島県立吉野川高等学校は、徳島県のほぼ中央部に位置しています。県内唯一の農業科と商業科を併設した学校です。校名の由来となった一級河川の吉野川を挟み、北岸の阿波農業高校、南岸の鴨島商業高校が発展的に再編統合し、新しく誕生した学校です。昨年5月には創立10周年を迎えました。まだ歴史は浅い学校ではありますが、前身の阿波農業高校は約70年、鴨島商業は約60年の歴史を受け継いでおり、専門教育を通じて地域に有為な人材を輩出してきた学校であるとも言えます。農業科は2学科、商業科は3学科の、合わせて5学科があり、全校生徒、約300名が、それぞれの科で3年間を通じて専門性を高めています。

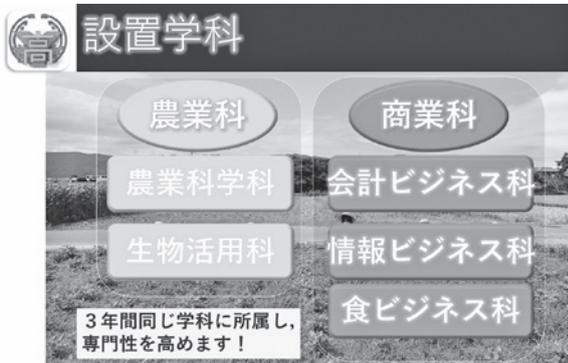
農業科学科と生物活用科、2年次から、それぞれ三つの専攻に分かれて実習などを行います。きめ細かい指導を受け、専門性を生かした食品を含む製造関係、その他にも農業関連産業へ就職しています。特徴的な取り組みとして、企業と商品開発を行う6次産業化が挙げられます。新聞記事は、農業科学科の生徒が栽培したブドウ品種、シャインマスカットです。地域のふるさと納税返礼品として採用された



農業科

商業科

り、企業と商品開発を行うなど、各方面から大変好評をいただいております。また、地域連携、高大連携、各種コンクールへの出品などがあります。さらに、全国押し花アートコンクールでは、毎年、第1席をはじめ、数々の賞への入賞を果たしています。国家資格を取得することもできます。続いて、商業科の紹介です、動画を用意しておりますので、ご覧ください。



(動画再生：吉野川高校は、販売実習を通して地域と連携し、にぎわいづくりに取り組んでいます。情報ビジネス科は、ビジネスにおける大量データの処理方法、プログラミングなどを学びます。外部講師を招聘し、動画編集についても学んでいます。会計ビジネス科は、ビジネス社会における帳簿の付け方などを学びます。商業の各種競技会や、多くの資格取得にも挑戦しています。食ビジネス科は、全国的

にも珍しい学科で、地域の食材を生かしたメニューの開発や、食の安心・安全を学び、スクールカフェ吉野川の運営を通して、接客マナーの学習、コミュニケーション能力の育成に励んでいます。社会人講師の先生からコーヒーの入れ方や、商品開発も学ぶことができます。)

商業科は情報ビジネス科、会計ビジネス科及び全国でも珍しい食ビジネス科があります。動画編集やプログラミング等の学習、さまざまなコンテストへの参加や、各種競技会での全国大会に出場を果たしたり、食に関する学びを深めています。また、検定の取得に向けて、子どもたちは日々努力すると、目標を持ってスキルアップに励んでいます。

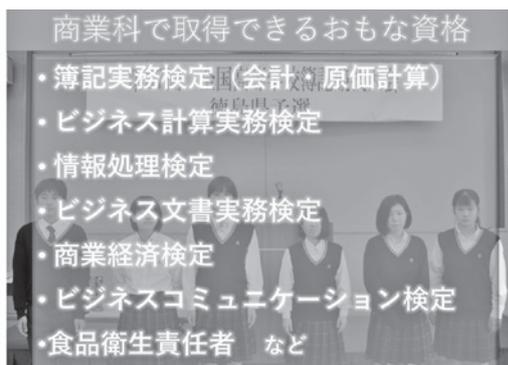
学校全体として、SDGsにも取り組んでいます。この動画はSDGsについて知ってもらうため、子どもたちが学校全体で取り組むために制作したものです。ご覧ください。

(動画再生：こんにちは、エシカルクラブです。エ

シカルクラブでは、授業を通してSDGsの理解を深めています。吉高にもSDGsを広めたいと思い、私たちは立ち上がりました。SDGsは2030年までに持続可能で、より良い世界を目指す国際目標です。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の誰一人、取り残さないことを誓っています。難しく思うかもしれませんが、実は僕たちの身近な行動からSDGsを取り入れることができます。私たちの取り組みとして、ペットボトルの分別を心掛けています。ラベルはごみ箱へ、ふたはエコキャップ入れ、飲み終わった後、ペットボトルは捨てる前に水洗いして、ごみ箱に入れましょう。

(一同) 小さなことからコツコツと、広がれ吉高、SDGsの輪。)

この他に、さまざまな部活動で活躍する子どもたちも多く、特にボクシング部では、毎年、全国大会へ出場しています。文化部で活動する子どもたちも多くいます。ショッピングセンターでの書道パ



フォーモンスは、地域の方々にも喜ばれています。

子どもたちの学校生活の楽しみの一つは、メニューが豊富で、作りたてを安く提供してくれる味自慢の食堂。そして、さまざまな学校行事が挙げられます。今年も、例年どおり開催されることを期待しています。

それでは、ここから、本校のPTA活動の紹介をさせていただきます。開校以来、継続していた取り組みは、文化祭でのPTAの焼き鳥販売です。毎年、安くておいしいと、販売のテントの前はいつもにぎわっていました。新型コロナウイルス感染症が広まり、中止となる前までの2年間は大変でしたが、最終的には1500本もの串を販売しました。完売することができ、終了後にはPTAの結束力の強さも感じられ、ワンチームになれたことは忘れられません。他にも、大学や専門学校への訪問、体験型研修、人権教育映画会、食に関する講演会や料理講習会等が行われました。

PTA活動から得られたこととしては、PTA役員や会長として、各種研修会に参加し、学校へ足を運ぶことの大切さを知ったように思います。PTA総会や役員会だけでは出会うことができなかつた、多くのPTA会員のかたがたと知り合うことができ、交流を深めるきっかけにもなりました。PTAとして、結束力は学校に集まり、このような経験を積み重ねることで培われていくものだと思います。PTAが先生がたと共に考え、歩みを進められる環境であれば、それは子どもたちが安心して学校生活を送れる環境でもあると言えるのではないでしょうか。

PTAのこれからを考えると、人口減少は避けては通れない問題になっています。徳島県の14歳以下の子ども人口は、2002年との比較で、吉野川高校が開校した2012年までの10年間で16.6パーセント減少しま



した。さらに、その10年後には20.9パーセントも減少したと発表されています。人数に換算すると、20年間で3万8550人も減少しています。吉野川高校では、開校する8年前から話し合いが始められていました。新高校の設立に向け、部署ごとに開校準備委員会が設けられ、連日連夜、話し合いが行われました。PTAについては総務課の先生方が担当し、組織や規定から活動内容など、事細かく決められ、そ

の情報はPTA役員にも共有されました。新高校としてスタートした初年度は、旧の二つの学校のPTAの役員間で遠慮があったと伺っています。文化祭でのバザーや、校内外の研修、行事での交流を重ねていくうちに、打ち解け合い、理解が深められていったと聞いています。

昨年の5月に開催された創立10周年記念式典では、開校時の校長先生をはじめ、歴代のPTA会長や、懐かしい方々にお目に掛かることができました。うれしさとともに、歴史が確実に紡がれていることも実感できました。次の10年に向け、私たちPTAは、学校と協力し、活動を継続していきたいと思

創立10周年



吉野川高校は、子どもたちの可能性を見つけられる学校であり、一人一人が主役になれる学校です。そして、何より、私たちも共に成長できる学校です。これからの新しい時代を、私たちPTAは、先生方と協力し、子どもたちのために、子どもたちを支え、子どもたちと共に、成長していける存在でありたいと強く願い、発表を閉じたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

発表テーマ

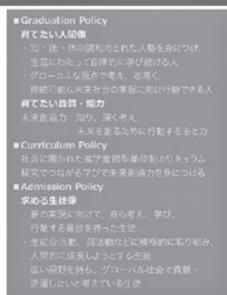
運営の充実と協力体制により、生徒の学びを支える ～キャリアの学び・グローバルな学び～

岡山県立倉敷南高等学校前PTA会長 田野 美佐



皆さま、こんにちは。岡山県立倉敷南高等学校で、令和3年・4年度にPTA会長を務めました、田野美佐です。このような発表の場をいただきましたことに感謝申し上げます。それぞれの学校でPTAの活動をされている皆さまと共に、その活動を振り返り、他校や他県との、置かれている環境や、活動の視点の違いや、共通する課題を考えるための一つの材料にさせていただくことができれば幸いです。

1 倉敷南高校の概要



倉敷南高校は、こちらの会場から自転車で20分ほど南にある、1学年8クラスの普通科高校です。市内全域とその周辺から生徒が通っています。昭和49年に開校しましたので、今年がちょうど創立50周年に当たります。倉敷南高校では、子どもたちが勉強と部活動のバランスを取りながら、充実した学校生活を送ることのできる学校として、広く認識されています。『夢をかたちに Chance & Challenge』を

スローガンに、子どもたちはさまざまな学ぶ機会を得て挑戦します。未来を開く志と力である、「未来創造力」を身に付けることにより、3年間で一人一人が可能性や視野を広げ、自分の夢を見つけ、その実現に向けて努力していきます。そのようなステージをつくり続けるために、保護者や地域の関係者の理解と支援が不可欠です。

このような全校生徒960人の普通科高校におけるPTA活動について、その概要からご説明いたします。主な運営は、会長、副会長、監事の執行部役員12名と、評議員、約70人で行っています。まず、執行部役員は12人の少人数グループですので、毎月1回の頻度で、学校の会議室で役員会を開催してきました。ところが、昨年までの3年間は、新型コロナウイルス感染症の対策のために、保護者が校内に立ち入ることができない期間が長く、役員会を対面で開催できませんでした。そこで、LINEを使って、すぐ

2 PTA活動の概要

PTA役員会 ほぼ毎月開催
メンバー: 会長・副会長・監事の執行部12人



に情報を共有することにしました。事前の出欠連絡だけでなく、必要に応じてアイデアや意見の交換も積極的に進めてきました。子どもたちも、1人1台端末の活用が進んでいます。親同士の連絡にも、手持ちのスマホで気兼ねなく連絡し合えるような組織を目指すよう心掛けています。

そして、評議員会は、各クラス3人ずつ選出された評議員、約70人の多人数の組織となります。生活

2 PTA活動の概要

PTA評議員会 年4回開催
メンバー: 約70人(各クラス3人ずつ)生活委員会・広報委員会



委員会と広報委員会を設け、生徒の交通指導や、健全育成のための広報活動を行うなど、教育の自立と振興に寄与することを目的とした活動をしています。この写真のような評議員会は、年間4回、開催しています。感染症対策を講じて開催した評議員会では、保護者同士の意見交換や、学校からの現状報告の機会を、さらに多く求められるようになりました。そこで、評議員会が開催される日には、学年別に分かれて詳細な行事報告や、子どもたちの活動の様子を聞いたり、校内の施設見学をしたりする機会を設定しました。このような活動は、コロナ禍を経て、以前にも増して、大切な活動であることを認識しました。こちらが、そのときの様子です。

教室には3面プロジェクターが整備され、先生が授業で説明する場面だけでなく、子どもたちがプレゼンテーションを互いに発表したり、比較したりする活動ができます。図書館の閲覧机も授業での活用を考えて、配置が簡単に変更されるようになってきているという説明もありました。こちらは、学校から動画配信される際のスタジオになっている教室です。毎日の授業でも使用され、グループ学習ができるように、移動が簡単な机が整備されています。右側は、進路指導室です。PTAの進路指導費で購入した全国の大学の入試問題が、使いやすいように整然と並んでいます。PTA会費の使い道をしっかり確認するとともに、子どもたちの活動に寄与している様子も確認できます。このような機会を通して、授業への理解が深まり、見学の合間には保護者同士の会話も弾んで、相互理解が進みました。

では、ここから学校行事へのPTAの関わりについて説明します。子どもたちにとっても、そして保護者にとっても、学校最大のイベントが、9月上旬に開催される学校祭です。倉敷南高校では、立地する地域の名前にちなんで、葦岡祭と呼んでいます。自分の可能性に挑戦し、仲間と共に一つの目標に向かって取り組みます。文化祭では、クラスで展示、ステージ発表で部門優勝を競い、文化部は日頃の活動の成果を披露します。



倉敷南高校PTAの活動

南高最大のイベント
葦岡祭

2 PTA活動の概要

PTA評議員会
校内見学会



体育大会では、子どもたちが活躍している姿を見ようと、多くの方々が学校を訪れます。特に、和太鼓を使った3年生の応援合戦は、葦岡祭の華で、保護者テントは満員になっていました。ところが、コロナ禍でこの3年間は、生徒との接触を避けるために、保護者は参観できませんでした。昨年度は、体育大会の応援合戦の時間帯に限定して、3年生の保護者だけが運動場を見下ろす教室の窓越しに参観することにしました。さらに、PTA活動として、ジュース販売を再開させました。

このような活動を通して、以前のように急速に保護者同士のチームワークが復活していく実感がありました。文化祭での販売においても、感染症対策を講じながらも、実現可能な活動を考えました。まだ、昨年の夏は食べ物を購入しても昼の時間に自分の座席で、前を向いて食事をするようになっていました。そこで、黙食しやすい物を考えて、パンとおむすび、飲み物の販売を企画しました。

このような子どもたちの熱中症対策と行事の盛り上げに貢献するPTA活動は、子どもたちが多くの大人

と会話をする、貴重な機会にもなっています。この活動も、いよいよ今年度から本格的に再開しますが、昨年度に部分的に実施したパンとおむすびの販売で、予想をはるかに下回る販売となりました。そこで、今年度の役員は、文化祭と体育大会のときに、ジュースや軽食が購入できるクーポン券を、全生徒にプレゼントする企画を立ち上げました。ここにも、ポストコロナの新たな挑戦が始まっています。

今年度は、平成30年7月豪雨から5年になります。先週は市内でも追悼式がありましたが、西日本のあちこちで甚大な被害が出て、本日、お集まりの皆さまの中には、被災されたり、ご苦労された方もいらっしゃるかもしれません。PTAでは、各家庭から持ち寄った物を文化祭で販売するフリーマーケットも開催し、収益の一部を、義援金として倉敷市真備町関係団体に寄付をしたりしてきました。そして、令和3年度には、文部科学省優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました。この明るいニュースは、さまざまな困難の渦中であっても、保護者が集まるよりどころとしてのPTAの意味を強く感じることであります。

学級閉鎖や休校が続く、修学旅行が中止となり、文化祭などの行事の際にも、保護者は校内に立ち入ることができませんでした。このような中で、多くの視点からの意見を集めて、まとめていくことは大変でしたが、子どもたちの状況や保護者の気持ちを会員相互に伝え合い、保護者と学校がしっかりとスクラムを組んで、子どもたちの成長を手厚く支援してきました。

続いて、キャリアの学びを支える活動について説明します。進路・キャリア教育の場面では、地域の財産である美術館、研究所などの施設が活用され、保護者や卒業生も参加しています。子どもたちは、視野を広げ、自分と社会を理解するための、さまざまな体験を通して、自分のキャリアをデザインする大切な時間です。

3 キャリアの学びを支える活動

1年次：地域に学ぶ「マチプロ」

ラーニングカフェ

倉敷で仕事をされている方々との対話を通して地域や社会の課題に気づく

フィールドワーク

地域に出かけて自分の目で確かめる

プレゼンテーション

インタビュー内容をもとに地域の課題や自分の進路について考え発表



倉敷南高校PTAの活動



近くにある大原美術館の見学や、ワークショップへの参加は、平成26年度から大原美術館学校メンバーズ制度を活用しています。これはPTAが年間登録することで、子どもたちはIDカードを提示するだけで、いつでも無料で入館できるという制度です。

2年生では、分野に分かれて、個人またはグループで探究する活動、Minamixゼミがあります。自分の希望する進路に関連する探究テーマを立て、問いと仮説を設定して調査研究をします。研究内容をまとめて論文を作成します。そして、その成果をポスターセッションの形で発表します。相互評価しながら、将来、大学や社会に必要なプレゼンテーション等のスキルを身に付けます。11月のおかやま教育の日、関連行事として、校内ポスターセッションに多くの保護者が参加します。このセッションを盛り上げるために、保護者へは質問のポイントや話題について、事前にレクチャーを受けます。会場のあちこちで、大人が真剣に聞く態度が、会場の雰囲気をつくります。そして、保護者からの率直な質問が、子どもたちの考えを深める機会となっています。

また、日頃の授業で使う教室も進化しています。個性を育む学びの場として、知識を創造に変える新しい学びのスペース、倉南ラーニング・コモンズを設置しました。図書室や特別教室、廊下などに、使い勝手の

よい椅子とテーブルを配置したスペースです。子どもたちが、昼休みや放課後に自主学習をしたり、クラスメートと会話したりする他に、少人数授業やプロジェクト型学習でも活用されています。

2年生の総合的な探究の時間では、SDGs課題をグローバルとローカルの両方の視点から考える、課題研究の授業があります。このようなPBL、プロジェクト型学習の経験により、思考力や表現力を身に付けます。このようなグループの探究活動で活用するための教室整備にも、PTAが貢献しました。この事業は、岡山県が行っている、ふるさと納税制度を活用したもので、わが子の通う学校の教育環境の整備に役立ててほしいという方が、県立高校を指定して寄附をする仕組みです。卒業生や地域の企業の方々からも寄附が寄せられ、学校が計画した活用プランに基づいて、より良い学習環境の充実に活用されます。倉敷南高校では、その第2弾として、スクールモットーである文武両道を実践するため、トレーニング機器の整備充実を図る倉南トレーニング機器整備プランにも協力しています。



4 グローバルな学びを支える活動



続いて、グローバルな学びを支える活動について紹介します。平成30年度に倉敷市の姉妹都市である、ニュージーランド、クライストチャーチ市のカシミア高校と姉妹校提携を結び、互いに生徒20人と引率教員の派遣と受け入れを、隔年で行うことになりました。継続的な交流を通して、日本とニュージーランドの友好親善が始まりましたが、令和元年12月の受け入れを最後に、渡航ができなくなりました。そ

こで、交流をオンラインに切り替えることになり、昨年度は2年生320人全員が、英語の授業時間に1人1台端末を活用して交流をしました。

いよいよ、今年度より相互訪問が再開されます。まず、12月にニュージーランドの姉妹校から高校生を受け入れることが決まっています。校内での授業参加だけでなく、PTAが主催する土曜日活用事業として、高校生同士でパディを組んで倉敷美観地区を散策する、英会話おもてなし講座を支援します。また、PTAではホストファミリーを募集して、経費支援も行います。最終日には、ホームステイで預かった留学生を、わが子と共に抱きしめる保護者の姿が見られます。子どもたちに大きな感動とモチベーションをもたらすグローバル活動をPTAが支えています。

最後に、学校ホームページの支援についてお話しします。最近、どちらの高校もスマホの画面に対応した学校ウェブページが公開されるようになりました。専門的な知識や過剰な業務を教職員に強いることにならないよう、ホームページ作成費の一部をPTAが支援しています。保護者が校内に立ち入ることができなくなったことから、施設紹介、倉南バーチャルツアーを、専門業者にお願いして作成しても

5 開かれた学校づくりを支える活動



りました。校内施設の写真や、ドローンによる上空からの写真などで、周囲を見渡すことができます。(バーチャル映像)

この他にも、PTAからのお願いにより、学校で配布された保護者あてのプリントもホームページで確認できるようにしてもらいました。また、毎日、ブログ記事が更新され、保護者は子どもたちの活動を確認しようと、ホームページを頻繁に閲覧するようになり、昨年度末には、県立高校の中でアクセス数が第2位になっていました。

5 開かれた学校づくりを支える活動



令和5年度、創立50周年記念事業の一環として、保護者や卒業生に、南高の今を届けることを目的に、南高公式SNSを活用したフォロー&いいね！キャンペーンを展開しています。在校生の活躍に加え、PTA活動の様子など、さまざまな情報が公式ブログに掲載され、Facebook及びTwitterでプッシュ通知されます。YouTubeにも時々の動画をアップされています。保護者は公式SNSのフォロワーになる

ことによって、これらの情報を共有しつながることができます。PTAも南高ファミリーの一員として、フォローやいいね、リツイートなどでキャンペーンに参加・推進しています。

ポストコロナのフェーズに入り、さまざまな活動が4年ぶりに再開されます。学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを進めるに当たり、コロナ前に行っていた活動を踏襲するだけでなく、これまでに培ってきた運営の充実と協力体制をパワーに、予測不可能な時代を生きる子どもたちに、必要な教育を提供する学校を支えるため、子どもたちの活動をしっかり見定め、さらなる充実のために意見を出し合う組織を目指していこうと思います。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答



〈議長団〉 左：高知県高P連 都築靖正副会長、右：岡山県高P連 光岡宏文副会長

都築議長 それでは、ただ今の3名の方々の発表につきまして、ご質問・ご意見などがございましたら、挙手をお願いいたします。なお、発言の際には、会場のスタッフがマイクをお持ちいたしますので、しばらくお待ちください。また、記録の関係もございますので、県名、そして学校名、氏名をおっしゃっていただけますよう、お願い申し上げます。それでは、質疑応答に入っていきたいと思います。それでは、ご質問等ありましたら、挙手をお願いいたします。

光岡議長 それでは、真ん中の通路側の方、お願いいたします。

山本氏 香川県の高松中央高校のPTA会長をさせていただいています山本と申します。よろしくお祈いします。お三方、それぞれの課題を乗り越えた実例をお聞かせいただき、ありがとうございました。その中で一番お聞きしたいのが、広島皆実高等学校の杠会長なんですが。PTA会長としてのリーダーシップについて教えていただきたいと思います。

お話の中で、保護者の声を聞いて、それを実現するっていうのは、PTA活動の中で大切な在り方の一つかなというふうに感じました。その活動を現実にしていくためには、いろんな人の協力が必要というところ、外部の業者も巻き込んでというお話、すごく感動的だなと思いました。



その中で、二つ、お伺いしたいのが、保護者の声というのをどういうふうに見止めたのか。例えば具体的なアンケートとか、実際にそういう声があったということをお聞きになったのか。もう一つは、周囲を巻き込む、もちろんPTAもそうですが、学校や協力業者などを巻き込んでいく上で大切にされていた思いなどがあれば教えていただきたいと思えます。

光岡議長 広島皆実高校、枉会長、よろしくお願ひいたします。

枉会長 正直、僕がPTAに関わったのは去年からなので、2020年のときには子どもが学校にいる状況ではなかったんで当時のことは先々代の会長から聞いてるところになります。さっきもお話したように、まず大運動会は保護者の方も生徒も教員も、すごく楽しみにしていたということがあって、絶対中止してほしくないというお声はかなり上がっていたのと。同じように、心配だっという声もたくさん出たのは事実だということでした。アンケートを取ったということではなく、直接のお声であったりとか、役員を通じての声であったりというのがかなり届いていたということでした。

周囲の業者を巻き込んでということになってくると、周りの業者の方々もコロナでイベントが中止になったということでお仕事がなかったということもあつたり。あとは、子どもたちのためなら何とかしようということ、いろんな皆さんの善意と熱い思いが重なった形でうまく整合ができたのかなと思えます。ポイントとしては、学校とPTAが同じ方向を向いて、協力をしてタッグを組んで仕事が進んでいったというのが一番大きかったんじゃないかなというふうにお聞ひしています。

山本氏 ありがとうございます。みんなの思いを一つに整えていくというか、同じ方向に向けていくというの、すごく大事だなと感じました。ありがとうございます。

光岡議長 ありがとうございます。その他、ご質問ある方は挙手をお願いいたします。それでは、奥の手を挙げていらっしゃる方、お願いいたします。



山本氏 徳島県城北高校の会長をやらせていただいております山本と申します。私も広島県の皆実高校さんの会長さんにお伺ひしたいんですが、1,000人もの生徒さんの大運動会ということでいろんな声があったと思えます。特にやってほしいという声は分かるんですけど反対するような声もいろいろあったかと思えますが、どのようにその声を抑えていったのかというところ。学校の内部だけではなく、外部からの反対の声もあったのかなと想像しています。自分

の学校では、学校と校長先生中心に、PTAも運動会やろうというところまでまとまっていたんですけども、先生の上の方の組織から「やるな」っていう声があったので断念をしたっていう経緯があるんですが、1,000人を超える中で、どういうふうにお催ひできたのかというのをお聞きできれば、ありがたいです。

光岡議長 皆さん、抱えてる悩みかと思われますけど、枉会長、よろしくお願ひします。

枉会長 本校は結局、コロナ禍においても大運動会を1回も中止することなく、ここまで実施してきました。いろいろ意見はありますが、基本的には、生徒、保護者、教員ともに、どうしてもやりたいという、そういう思いが強かったのです。多分、抑えたというよりも、みんなが楽しみにしてたっていう方が、勝ったというところが一番大きいのかなと思います。あと、周囲からの声については、本校が責任を持ってやるということなので、そのあたりのところについては、責任を持って学校とPTAで協議をしながら進めていったという次第です。

山本氏 ありがとうございます。

光岡議長 ありがとうございます。それでは、その他、ご質問がございますか。前の方、お願いいたします。4列目ですかね。

塩田氏 高知県高知農業高校の塩田と言います。よろしくお願ひします。吉野川高校の瀬尾様にお聞きしたいのですが、徳島県はたくさんの学校が統合され、また、吉野川高校さんにおいては、阿波農業と鴨島商業さん、歴史と伝統のある学校が統合し、それに伴いPTAの方も統合された。それに8年間の話し合いの時間を設けられたというふうにおっしゃっていました。

実際に、この8年間の時間があればスムーズにできたのかといたら、なかなかそうではなく、いろいろな問題やご苦労があったことと思います。そういう中で、現実的な話し合いとして、最終的にPTAの統合の一番のキーポイントになったところはどんなところでしょうか、お聞き願えたらというふうにあります。



光岡議長 吉野川高校、瀬尾さん、よろしくお願ひします。

瀬尾顧問 私の方は当時の状況を詳しく知ることは難しいんですが、聞いたところによると、二つの組織を一つにするのは、行事だったりとか、組織だったりとか、精査していく、分別していくことが一番だったように思います。両校の先生方によって話し合われて、決定した項目は、その都度PTAの役員等に共有されたって聞いています。ある程度、先生方が形をつくってくれてから、各校のPTA役員が集まって話し合いを重ねていったみたいです。他の科では難航することもあったみたいですが、PTAは子どもたちのためっていうのが土台にあるので、比較的、スムーズに統合していったと聞いています。

塩田氏 ありがとうございます。

光岡議長 ありがとうございます。それでは、その他、ご質問等ある方、お願いいたします。後ろの、通路の上の方ですね。上から3番目の、ネクタイをされてる方、お願いします。



松本氏 岡山県山陽学園緑会会長の松本と申します。高い所から失礼いたします。発表者の皆さま、本日は素晴らしい発表、ありがとうございました。大変、勉強になりました。私からは徳島県立吉野川高校の瀬尾顧問にお伺いしたいと思います。

先ほどの発表の中で、文化祭を通じて地域と密着したPTA活動をされていたということで、非常に素晴らしいと感じました。そこでお聞きしたいのが、文化祭以外で、どのような形で地域の方と連携されたかという点と。もう一つが、この先10年に向けて、何か目標がございましたら、お聞かせください。

光岡議長 瀬尾さん、よろしくをお願いします。

瀬尾氏 家庭科の生徒や先生方と一緒に料理講習会をしました。徳島県出身の料理研究家の浜内千波先生の料理講習会に関しては、地域連携として、地元の食材を伝えて、それを使った、生かしたメニューを考案してもらって、みんなで楽しく、おいしくいただきました。あとは、月に一度、学校の登校時なんです。校門や通学路に、生徒会の子どもや先生方と一緒に立って、おはようという声掛けを、あいさつ運動をしていました。学校近くの駅前とか、校内での農産物の販売や、収穫祭や、スクールカフェなども、オープンにしていますので、地域の方々がたくさん来て喜んでいただいています。

10年に向けてなんですが、コロナ禍で中止していた文化祭の焼き鳥販売や、あいさつ運動も復活していくと思います。これについては、これからも継続して行ってほしい取り組みで、今までの10年間でしていた取り組みも、もちろん、いいものは続けて行ってほしいんですが。これから少子化で子どもの人数も減っていくし時代も変わってくるので、保護者の負担も大変大きくなってPTAも大変だと思います。今の会長さんやその次の会長さんにつながっていく中で、その時その時で、その時代に合わせて、子どもたちのために話し合ってもらって、やれることをやって行ってほしいと思っています。そして10周年は終わったんですが、20周年、30周年とあったときに、こういうことをしましたとか、こんなふうにして成功した、継続していますなどと、話を聞けたらいいなと思っています。

一つ、私からの願いとしては、うちの高校だけではないんですけど、全国的にPTAをする人に、嫌々するのではなくて、すごく楽しいので、楽しんでPTA活動して行ってほしいなというのが、これからの目標というか、やって行ってほしいことだなと思っています。

松本氏 ありがとうございます。時代に合わせて吉野川高校さん、ますます、ご発展されることをお祈りしております。

光岡議長 ありがとうございます。そして、その二つ前の方、先ほど手を挙げられましたね。

森本氏 失礼します。岡山県岡山御津高校の森本と申します。このたび、3校から貴重なお話を聞けて、大変、勉強になりました。中でも、地元という同じ県にはなるんですけども、倉敷南高校の田野さんにお伺いしたいんですが。特に、ラーニングカフェとかで地域企業、また大原美術館とかとタッグを組み合わせながら、キャリアを学ぶということをされているということなんですけども、実際、こういう手の活動というのは、どういうことのアプローチから始まっていくものでしょうか。例えばPTAの方から発案があって、大原美術館さんに問い合わせしてみようとか、地元の企業さんに問い合わせ、誰か代表として相談してみようとか、そういうことから始まっていくものなんですかね。よろしくお願ひします。



光岡議長 倉敷南高校の田野さん、よろしくお願ひします。

田野前会長 すいません、私が役員になったときには、もうこの活動をしていましたので、はっきりとしたことは分からないんですが。PTA役員だけでなく学校の先生や、卒業生の方もおられますので、その方からもアプローチがあったと思います。あと、私たちは経費の面でバックアップしていくという形でやらせていただいています。

森本氏 ありがとうございます。これから参考にさせていただいて、私も今年からPTAになったばかりで、これから3年間、学校と組みながら、生徒のキャリアとか、いろんなことに協力できるように頑張っていきたいと思ひますので、これからもよろしくお願ひいたします。

光岡議長 ありがとうございます。その他、ご質問等ある方。前の3列目の方、すいません、挙手をお願ひします。



すけれども。

川田氏 失礼します。高知県の伊野商業高校の川田と申します。本日は貴重な話を聞かせていただき、ありがとうございます。倉敷南高等学校の発表について、お伺いしたいのですが。SNSなど、今のツールを使われたり、行事などに、実際、学びの場で支援をされているということに感銘を受けました。精力的に活動されているようすけれども、保護者の皆さま、実際、どれぐらいの頻度で学校にいらっしゃっているのかっていうのは、素朴なお伺いしたいので

光岡議長 田野さん、よろしくお願いします。

田野前会長 頻度と言いますか、コロナ禍の前までは、役員会は毎月開催していました。評議委員会というのも4回開催していました。コロナ禍になりまして、会自体がなかなかできなかったんですが。以前でいいますと、体育会の応援合戦とか。あと、総合的な探究の時間「Minamixゼミ」の課題研究でポスターセッションがあるんですけど、ポスター発表会には多くの保護者が参加します。そのときに行ったりとかはしていたので、保護者が負担感で学校に行くというのではなく、自分たちが行きたいからっていう形で、子どもたちの様子を見たいからという形で行っているの、頻度としてはそんなに、役員でない方は多くはないと思います。今はコロナ禍になりまして、Twitterとかで、日々、ほとんど毎日のようにブログを更新してくださるので、それで学校の様子が行かなくても分かるというのもあるので。これはコロナ禍によって得た財産というか、いいことだなと思っています。

川田氏 ありがとうございました。

光岡議長 ありがとうございます。その他、ご質問がある方は挙手をお願いいたします。そうしたら、左の、白いジャケットの。

絆地氏 徳島の池田高校から来ました絆地とします。よろしくお願いします。全ての高校に言えることではあると思うんですけども、倉敷南高校の田野さんにお伺いしたいと思います。新型コロナウイルスが猛威を振るったポストコロナから、季節性インフルエンザと同じ5類に移行され、アフターコロナとなりましたが、果たして以前のように戻るのでしょうか。そしてまた、PTA活動で以前と変わったことやお感じになったことを教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。



光岡議長 田野さん、よろしくお願いします。

田野前会長 コロナ禍になりまして、学校に保護者が立ち入れないということになりましたので、そのときはオンライン配信で総会とか文化祭とか、そういう行事を配信していただきました。それは今までは、直接、もし体育祭であれば、保護者が休みを取っていかないと見に行けなかったんですけど、何日間かYouTubeとかで配信してくださったので、保護者が自分の好きな時間に子ども様子が見れるということに関しては、コロナ禍においては、それを先生方にしていただいたので、とてもいい取り組みだと思います。

今年から再開されると思いますが、以前のようにすぐに戻るかといえば、そうではないと思うんですけども、オンラインでできることはオンラインでしたらいいと思いますし、対面でできることは対面でしたらいいと思いますので、そのときの状況に合わせてやっていくやり方というのが、一つではなく、二つも三つ

もできるやり方が、これから模索しながらやっていけるのではないのかなと。また、そのときの保護者の状況、学校の状況によって、選択できるPTA活動ができるのではないかなと思っております。

絆地氏 ありがとうございます。コロナの影響に負けないように頑張っていきたいと思います。

光岡議長 ありがとうございます。その他、ご質問ある方は挙手をお願いいたします。前から3列目の真ん中のマスクをされている。そのまま、挙手をお願いいたします。

島崎氏 高知県の岡豊高校から参りました島崎と申します。倉敷商業高校でしょうか、発表の中で、天文台からのオファーで、生徒たちが改善点をいろいろと提案したということに非常に興味を持ちまして、これにエールを送りたいと思います。昨日、残念ながら曇り空だったんですけど、私も美観地区を夜歩きまして、外灯も結構環境配慮して、周りに光の害が行かないような外灯でした。子どもたちが今回、頑張っ、その提案をしたと倉敷天文台の本田実さんの名前も懐かしく聞きました。私ども、コメントハンターの関さんの関連で、私も子どもの頃から星が好きで感銘を受けました。



今後へと、星は人の命に比べて、ずっと動かないぐらいですけど、暗さに関して、町の明るさに関しては、私たち一人一人が努力しないと守っていけないものなんです。子どもたちにこのエールを送りたいのは、この活動を通じて、ぜひ、この岡山、倉敷地区の空を守ってほしいなということを伝えていただければと思って、発言しました。よろしくお願いします。質問ではありません。

光岡議長 ご意見ということで、ありがとうございます。その他、ご質問等ございますか。挙手をお願いいたします。すいません、奥の白い方。



山本氏 徳島県城北高校の山本です。岡山の倉敷南高校にお願いしたいんですけど、SNS等でいろいろ発信を学校でされてるということですが。お子さんたちの肖像権というか、プライバシーというか、そのあたり、どういうふうに学校で解決しているのかということをお伺いしたいと思います。保護者の方でも、嫌がる保護者さん、いらっしゃるかと思うんですけども、どういうふうに解決しているのかということ、よろしくお願いします。

光岡議長 田野さん、よろしくお願いします。

田野前会長 まず、載せるに当たっては、保護者全員に了承を得ております。どうしても載せてほしくないというご家庭には、それはしていませんし、はっきりと個人が特定できるような載せ方ではなく、みんなで行っているとか、その辺は学校のほうで配慮をしてやっているとお伺いしています。

山本氏 ありがとうございます。そういった取り組みを、お子さんたちに、指導と合わせて、お伝えしているのかっていったところは、いかがでしょうか。

田野前会長 それは、子どもたちも全員、了承の上で。

山本氏 ありがとうございます。SNSの使い方、子どもたちにどういうふうに親が伝えていったらいいのか、学校からの指導ではなくて、家庭教育の一環でそういうことを伝えていくってことがすごく大事だなというふうに、今感じておりますのでお伺いしたかったところです。ありがとうございます。

光岡議長 ありがとうございます。その他、ご質問ある方、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

都築議長 それでは、たくさんのご質問・ご意見、ありがとうございました。予定の時刻が近づいてまいりましたので、以上で研究協議を終了いたしたいと思えます。発表者の皆さまも、大変、お疲れさまでございました。

光岡議長 つたない議長ではありましたが、発表者の皆さまの熱意と、会場の皆さまの大変、たくさんのご質問をいただきまして充実した時間になったと思えます。心から御礼を申し上げます。発表者の皆さま、会場の皆さま、ありがとうございました。